

情報のウソ・ホントを見抜く力

ファクトチェックの 3つの基本と4つの技術



JFCとは

ファクトチェックとリテラシーを学ぼう！

日本ファクトチェックセンター（JFC）は、情報の真偽を検証する「ファクトチェック」とメディアや情報への理解を深める「メディアリテラシー教育」に取り組む非営利団体です。この冊子は、情報を自ら検証するために必要な最低限の知識をまとめています。心構えや技術を基礎から紹介します。より詳しく知りたい方はJFCが無料公開している講座などをご活用ください。

JFCサイト <https://www.factcheckcenter.jp/>

ファクトチェック講座 <https://www.factcheckcenter.jp/info/others/jfc-fact-check-course-20/>

「フェイクニュース」の実態



誰もが目にしている偽・誤情報

一般的に「フェイクニュース」と呼ばれる「誤情報（誤った情報）」や「偽情報（意図的に操作された情報、デマ）」は、世の中に蔓延しています。もし、偽・誤情報を見たことがないという人がいるとしたら、ネットは使わない。新聞もテレビも雑誌もラジオも映画も見ず、誰とも話さずに山奥で一人で生活しているような人でしょう。

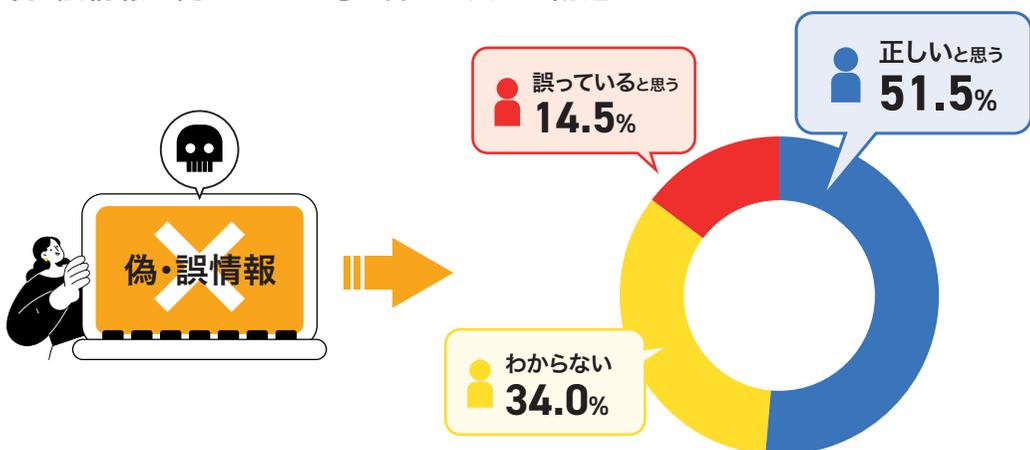
大量の情報が氾濫する現代において、誤った情報を信じ込んでしまわないために、一人ひとりが真偽を見極めるファクトチェックの技術やメディアリテラシーの知識を学ぶ必要があります。

バイアスによって51.5%の確率で「正しい」と受け止める

JFCと国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）が協力して実施した調査で、人は間違った情報を見せても51.5%の確率で「正しいと思う」と答え、「わからない」が34%、「誤っていると思う」と答えたのはわずか14.5%でした。

すべての人には「バイアス（偏り、先入観）」があり、自分の考えや価値観に近い情報に関しては、無条件に「正しいに違いない」と受け止めがちです。逆に自分の考えに沿わない情報は「誤っているに違いない」と考えがち。「騙される人は情報弱者」「自分は大丈夫」などと考える人達があります。実際には、誰もが間違えると理解することが、ファクトチェックやメディアリテラシーを学ぶ第一歩となります。

偽・誤情報を見て「正しい」と答える人は5割超



故意犯・確信犯・愉快犯

意図的に操作された「偽情報」を作るのはどういう人達でしょう。動機によって「故意犯」「確信犯」「愉快犯」に分類することができます。

「**故意犯**」とは、政治的・経済的な利益を求めて意図的に誤った情報を作る人達です。選挙で自分が応援する陣営を当選させたい、相手陣営を貶めたいとデマを流すような例です。経済的な利益とは、注目を集めて広告収入を得たり、商品売りつけたりする例があります。

「**確信犯**」とは、その情報が正しいと信じている人たちです。例えば、「ワクチンは毒だ」と信じている人は、科学的に根拠がないとしても「ワクチンは毒だ」と証明するような情報を集めて発信します。ワクチンは毒だと信じているために、それが多くの人を守ることに繋がると考えるからです。

「**愉快犯**」とは、自分が発信した偽情報に騙される人を見て楽しんだり、自分に注目が集まることを喜んだりする人たちです。

偽情報を作成する動機は？



故意犯
間違った情報を意図的に流し
政治的・経済的な
利益を得ようとする人



確信犯
正しいと信じ込み
間違った情報を
作成する人



愉快犯
嘘について注目を集めたり
騙された人を見て
面白がる人

アルゴリズムによる大量拡散、背景に「善意」と「口コミ」

情報が氾濫する現代は、自分の力だけで情報を探すことが困難です。XなどのソーシャルメディアやYouTubeなどの動画プラットフォームは、大量に投稿された情報のうち、各ユーザーの好みにあうものを自動的に選んでくれます。これが「アルゴリズム」です。

バイアスの影響で自分の考えに近い情報を求める人々にとって、アルゴリズムは便利なものです。人はそれに「いいね」や「シェア」をし、さらに拡散していきます。GLOCOMとの調査で、偽・誤情報をシェアした人に理由を聞いたら最も多かったのは「興味深かったため」、次に「重要だと感じたため」でした。つまり、人は悪意からではなく、善意から誤った情報をシェアします。

情報を吟味する3つの基本

クリティカルシンキング = 情報を吟味する

クリティカルシンキングは直訳で「批判的思考」。情報をすぐ信じたり、否定したりするのではなく、しっかり吟味することを意味します。人はバイアスによって好き嫌いでも直感的に情報を判断しがちです。クリティカルシンキングは、そういった即断を避け、時間をかけて情報を吟味します。

とはいえ、人は忙しく、すべての情報について念入りに検証をする時間はありません。「情報を吟味しましょう」と言われても、何をすればよいのかわからない人も多いはず。ここでは、最低限確認をするべき3つのポイントを解説します。

CHECK POINT

POINT 1

発信源を確認する



POINT 2

根拠を確認する



POINT 3

関連情報を確認する



1

発信源を確認する

まず第一に発信源を確認しましょう。2024年1月の能登半島地震では、偽の救助要請が拡散しました。発信源を見てみると、その直前の投稿まで外国語で海外から発信しており、急に日本語で能登から救助要請をするのは不自然でした。これは注目を集めて収入を得るために、日本人の投稿をコピーしてなりすました偽投稿でした。

発信源が著名人を装っている事例もあります。XやFacebookなどのソーシャルメディアでは、誰でも著名人や有名な組織の名前を騙ることができます。アカウントのIDやウェブサイトのURLを確認しましょう。本物とは異なります。

多くの偽・誤情報は、発信源を確認するだけで信頼性が非常に低いことがわかります。「その場にいるか」「情報を知りうる立場か」「いつ発信しているか」「捏造や改変されていないか」。発信者のアカウントや前後の投稿の確認、オリジナルとの比較をするだけで確認できます。

2 根拠を確認する

「Aさんが〇〇と言っている」とBさんが投稿したとします。Bさんの投稿が事実だとは限りません。JFCのファクトチェックでは、著名人の発言を捏造したり、一部を切り取って違う文脈で紹介したりするような事例が大量に見つかっています。

また、「厚生労働省が新型コロナウイルスのワクチンの死亡事例が〇〇件と発表した」という投稿がある場合は、それが本当に厚生労働省の資料というだけでなく、その死亡事例が本当にワクチンが原因なのか、両方を確認する必要があります。

XなどのソーシャルメディアやYouTubeなどの動画プラットフォームでは、根拠が全くなかったり、あったとしても不確かなのに、「〇〇は××だ」という風に断定的に決めつける投稿が大量にあります。その根拠は信頼性があり、主張を裏付けるものかを確認しましょう。

3 関連情報を確認する

根拠を調べるうえでも大切なのが、関連情報を確認することです。2023年5月にアメリカ国防総省（ペンタゴン）で大規模な爆発があったという情報がペンタゴンの建物近くで黒煙が上がる写真とともに拡散しました。実際には生成AIで捏造された画像でした。ところが、アメリカや日本などの一部メディアがこれを「テロの可能性」などと速報しました。

もし、本当にペンタゴンで爆発があれば、アメリカの大手報道機関CNNやニューヨーク・タイムズなどがすぐに速報を流すでしょう。関連情報を確認すれば、騙されなかった事例です。大規模な災害や事件が発生したり、著名人が逮捕されたり・死亡したりすれば、大手報道機関が速報を流すはずで、ソーシャルメディアの匿名アカウントしかその重大事件について触れていないとすれば、事実である可能性はほぼありません。

気になる情報を目にしたら、まず、大手報道機関や関連する公的機関、その分野に詳しい専門家が発信する関連情報を確認するようにしましょう。当事者や直接的な関係者の発信を調べることも重要ですが、直接の利害関係者の場合、自分に都合の良いように発信している可能性があることも考えておきましょう。複数の情報源を比較するようにしましょう。



ファクトチェック4つの基本技術

「検索」は情報の検証をするうえで最も役に立つ技術です。コツを知っておくだけで、効率的に自分が探したい情報を見つけることができます。ポイントは3つです。

CHECK POINT

POINT 1

高度な検索

「組み合わせ」
「オペレーター」で
効率的に探そう。

POINT 2

画像の検索

Googleレンズで
オリジナルを
探して比較しよう。

POINT 3

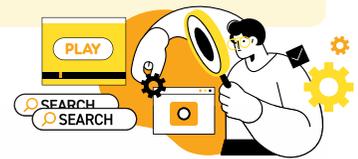
動画の検索

Googleレンズ
だけでなく、
YouTubeを活用しよう。

POINT 4

オープンデータの活用

公的機関や研究機関、
ニュースサイトを
複数比較。



1 高度な検索

様々な手法を使った効率的な検索方法を「高度な検索」と呼びます。コツを知っておくだけで、効率的に自分が探したい情報を見つけることができます。ポイントは3つです。

① キーワードを組み合わせる

2024年10月に始まった新型コロナワクチンの定期接種の自己負担額を調べたいときには、検索窓に「ワクチン」と打つだけでなく、「新型コロナ ワクチン 定期接種 自己負担額」と入れましょう。

② サーチオペレーターを使う

「サーチオペレーター」とは、検索対象を絞る際に使う技術です。例えば、ワクチンの情報について、厚生労働省からの情報だけ調べたいときは「site:mhlw.go.jp ワクチン」と打ちます。「site:」がサーチオペレーター、後ろにつけたのが調べたいサイトの住所（ドメイン）で、調べたいサイトのURLの一部からなります。もし、日本の政府系サイトのすべてから調べたい場合は「go.jp」です。サーチオペレーターは他にもたくさんあるので主だったものを紹介します。

覚えておくと便利なサーチオペレーター

| | |
|-----------|----------|
| site: | ドメイン |
| after: | 指定日以降に公開 |
| before: | 指定日以前に公開 |
| filetype: | ファイル形式 |
| inurl: | URL内の文字列 |

③ 何度も試す

これらの手法を使って、調べたい情報が見つかるまで何度も検索し直しましょう。探している情報が見つからない場合は、ネット上に存在しないか、調べ方が間違っているか、両方の可能性があります。

2 画像の検索

生成AIで画像を捏造したり、一部を改変したり、地震の際に「津波が発生した」などと東日本大震災のときの画像を使って偽情報を流す人たちがいます。役に立つのが「**画像の検索**」。オリジナル画像を探して比較することができます。

最も便利なツールは、Googleのブラウザ「Chrome」で利用可能な「**Googleレンズ**」です。検索窓の右端に出てくるカメラ型のアイコンをクリックしましょう。検索したい画像の範囲を指定することで、その画像と似た画像を探してくれます。見つかった画像と検証対象の画像が異なれば、オリジナルから改変されている可能性があります。似た画像が見つからなければ、捏造された可能性があります。

3 動画の検索

動画の検証でも画像と同じくオリジナルを探します。ここでも活用するツールは「**Googleレンズ**」。動画の一場面をGoogleレンズで検索すれば、似た動画を探せます。動画の場合、オリジナルの数十秒だけを切り抜いた「切り取り動画」が多数あります。本来の意味と異なる内容になっていたり、英語の動画に内容と違う日本語訳がついていたりすることもあるので、オリジナルを精査する必要があります。

Googleレンズで見つからない場合は、世界最大の動画プラットフォーム「**YouTube**」で探しましょう。検証対象の動画に映っている著名人の名前、参加しているイベントや会場の名前など、思いつくキーワードで探してみると見つかることがあります。

4 オープンデータの活用

インターネットには膨大な情報が公開されています。特に公的機関や研究機関などが公開している情報は信頼性も高く、年々調べやすくなってきています。サーチオペレーター「site:go.jp」を使うだけでなく、無料で利用可能なデータベースなど、公開情報（**オープンデータ**）を積極的に活用しましょう。

デジタル庁が運営する総合的な行政データポータルサイト「**e-Gov**」や政府統計の総合窓口「**e-Stat**」は、各省庁のデータを横断的に検索できる非常に便利なサイトです。Googleが公開しているデータベース「**Fact Check Explorer**」では、世界中のファクトチェック組織が公開している検証記事を探することができます。

あなたの考えは、 あなたが接する情報で作られる

私達は日々、大量の情報に接して生きています。今日の天気は、交通機関は動いているか、事故や災害はないか、経済や株価はといった日々の状況から、何を学ぶか、どの業界で働くか、どこに住むかなど、あらゆる判断は、あなた自身が接してきた情報をもとに下すしかありません。

つまり、「**あなたの考えは、あなたが接する情報で作られる**」と言えます。偏った情報や、質が低い情報ばかりを見ているとしたら、偏食で健康を害するのと同じような状況になってしまいます。

現代の情報環境を理解して活用するメディア・リテラシー、個別の情報を検証するファクトチェック。この両方を学んで、自分が必要とする、信頼性の高い情報を見極める技術を磨いていきましょう。



JFCについて
さらに詳しくは
こちら



理論から実践まで学べる
JFC ファクトチェック講座



JFC ニュースレターの
登録



一般社団法人セーファーインターネット協会
日本ファクトチェックセンター